

県における新たな地域安全施策の展開について
～防犯カメラ設置補助事業にかかわる支援の在り方の検討～

【検討の方向性】 ①先端技術の活用 ②防犯カメラの利活用

1 防犯カメラ設置補助事業の取組経過について

(1) 事業概要

まちづくり防犯グループ等の地域団体が行う防犯カメラ設置の取組に対して、設置費用のうち8万円（定額）を補助。

①住民の防犯意識醸成、②見守り活動の活性化、③市町による取組を促すため、モデル的事業として、県単独事業としてH22年度より実施。

(2) 実施状況

地域創生戦略（第1期：H27～R元年度）に基づき、R元年度までに、防犯カメラ設置箇所数3,000箇所程度に向け整備を進め、目標を達成。

○防犯カメラ設置補助事業の状況及び実績

区分	予 算			実 績				補助単価 (千円)	平均事業 費/箇所 (千円)
	当初	補正	計	応募数		補助数			
				団体数	箇所数	団体数	箇所数		
H22	50	50	100	62	78	52	64	180	357
H23	100	70	170	93	216	84	166		239
H24	150	113	263	289	718	261	261		215
H25	250	—	250	168	276	145	232	80	218
H26	200	200	400	482	859	383	383		224
H27	400	—	400	537	956	392	392		229
H28	500	—	500	577	1,137	493	493		234
H29	500	—	500	539	886	487	487		237
H30	500	—	500	579	743	492	492		214
R元	500	—	500	537	656	490	490		241
R2	500	—	500	442	540	441	500		199
合計	3,650	433	4,083	4,317	7,065	3,720	3,960	—	—

補助金額累計 365,900千円（約3億7千万円）

※R2の実績（補助数）は見込み

(3) 各市町の取組状況

市町による防犯カメラ設置の取組を促進するため、県が先導的に取り組んできた結果、H29年度以降は、全市町で補助事業、直接設置のいずれかが実施されている。

○防犯カメラ設置取組市町数

年度	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2
補助事業	0	0	2	11	14	28	32	38	38	37	37
直接設置	3	3	6	6	7	11	14	20	22	24	28

○市町による直接設置台数～約 5,200 台（R3.2 末時点）※県で把握できた台数の合計

○令和 2 年度における事業別内訳

事業別内訳	市町名	参考
補助事業がない市	西宮市、伊丹市、三田市、小野市	4 市とも直接設置（過去に補助事業あり）
随伴補助ではない市	姫路市	県補助以外の団体に補助
随伴補助実施市町	上記を除く 36 市町	

※随伴補助…県の補助とあわせて実施する市町の補助

○市町における主な取組事例

自治体名	事業概要
伊丹市	市内に 1,200 台の防犯カメラを設置。ビーコン検知器※を防犯カメラとあわせて設置することにより、効果的な見守り活動を推進（H27～）
加古川市	市内に 1,475 台の防犯カメラを設置。ビーコン検知器を防犯カメラとあわせて設置することにより、効果的な見守り活動を推進（H29～）
神戸市	市内に 2,000 台の防犯カメラを設置中（R2～）

※BLE 端末を児童や高齢者に持たせることにより、保護者等が所在を確認することができる民間事業者によって行われているサービス。BLE 端末から発信される電波を受信するためのビーコン検知器が必要であり、検知器数が多いほど精度が高くなる。

○市町事業としての事業実施を促進するための県の取組

- ・ 県事業の補助金交付事務（申請受付・実績報告受理等）の市町対応を依頼
- ・ 県事業に関する質疑応答集の作成と市町への送付
- ・ 市町に対する県事業の説明会の毎年度の開催

2 防犯に活用できる先進技術の研究

これまでに県では、特に先端技術を活用した防犯施策の可能性について、防犯事業者からのヒアリング等により研究を進めてきた。

○5G 規格の導入

次世代通信規格として 5G 規格が導入されることにより、通信速度が飛躍的に早くなることから、ネットワーク化した防犯カメラの画像等のデータ転送に要する時間が短縮される。

〔応用例〕 防犯カメラ画像等の通信ネットワークの高速化

ネットワーク化された防犯カメラ等について、記録された画像を抽出するのに際して、通信回線に5G規格が導入されることにより、即時の抽出を実現

○AI技術

防犯カメラの画像解析の際に、例えば登録した特定の人物を自動的に識別する等の効果を発揮するAI技術について、防犯への各種の応用が期待される。

〔応用例〕 AI技術を活用した映像の自動解析

犯罪捜査において、長時間の映像から必要な映像だけを自動的に抽出した短時間の映像にすることで、映像解析に要する時間を大幅に短縮（県警で導入予定）

○GPS端末とビーコン端末

位置情報を確認する技術として、GPS端末とビーコン端末があり、位置情報を認識する精度も向上していることから、見守り事業のほか、更なる防犯への応用も期待される。

端末の種別	概 略	メリット	デメリット
GPS端末	人工衛星を活用して位置情報を把握	・設備投資が不要	・地下の感度が悪い ・電池の持続性が悪い
ビーコン端末	端末から発信される電波を受信機で受信して位置情報を把握	・装置が小さい (500円硬貨程度) ・電池の持続性がよい	・受信機の設置が必要 ・電波の受信距離が短い

※GPS、ビーコンいずれの端末も、既に民間ベースの見守りサービスとして活用されている。

〔応用例〕 防犯カメラにビーコン受信器端末をあわせて設置した見守りシステム

児童や高齢者を捜索する必要が生じた際に、最後にビーコン信号を受信した受信器が設置された防犯カメラ映像を確認することで、捜索活動の効率化を実現（加古川市、伊丹市で既に導入）